

テーマ「園内研修を通しての学びと気づき」

サブテーマ「関わりの中での学びと気づき」



おおな愛児保育園
保育士 伊波 智子
保育士 砂川 千夏

1

1. はじめに

昨年コロナ禍で研修が少なくなり、園内研修を通して保育の資質向上の充実を図らなければならないと感じる。

本研究では、園内研修のプロセスを振り返り、それらの園内研修を通して一人一人の保育者が、どのような気づきや葛藤を得たか、どのような行動の変化があったか等について考察を行うものである。

月に1回園内研修を行い、保育者の関わりを職員全体で学ぶ機会を作る。

園内研修を通して、保育者の関わりを学び、一人一人が悩みを抱えている事に気づく。

その悩みを共有し、関わりでの学びを通して、資質向上に努めていく。

保育所保育指針第5章に謳われている子どもの最善の利益と子どもの権利保障に配慮した保育につなげるために、職員研修を行っていく。

2

2. 園の概要

平成20年3月、旧那覇市立大名保育所より選定移管。

平成23年4月園舎完成。

乳児は、育児担当制・幼児は異年齢保育を行い、人権に配慮した丁寧な保育を意識している。

自然あふれる園庭には、緑が多くたくさんの虫や鳥などが集まってくる。また、ビオトープや畑などがあり、心地よい風が通り抜ける環境である。

クラス編成		2クラス	2クラス	異年齢クラス			合計
年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
人数	12名	19名	24名	30名	22名	7名	114名

R3年7月1日現在



玄関



1歳児クラス



異年齢クラス



園庭

3

3. 園内研修の目的

- ①園内研修を通して、自らの保育力を高め、子ども達の最善の利益や人権に配慮した保育を行う。
- ②保育者の関わりの理論や実践を学び、園全体で共通理解し、保育を行う。
- ③園内研修を通して、自ら考えを発言したり相手の考えも受け入れ、積極的に参加する。
- ④個人で学んだ内容などを職員で共有し、保育を高める。
- ⑤保育の悩みを共有し、改善につなげる。

4

4. 園内研修の方法

- ①月1回第3土曜日に園内研修を行う。
- ②高山静子先生の書籍「保育者の関わりの理論と実践」の演習問題をもとに、職員が交代で研修を進めている。
- ③研修前にはアイスブレイクを取り入れ、職員間の意見が出やすくなるように、レクレーションを行っている。
- ④3～4名で分かれてグループ討議を行う。
 - ・発言する機会を作る。
 - ・1分以内にまとめて話す。
 - ・進める人、記録、発表の役割分担を行う。



5

5. 園内研修の内容

これまでに下記の①～⑥の園内研修を行う

- ①肯定的な見方と表現を知る
- ②肯定的（ポジティブ）な話し方を知る
- ③生活のスキルや社会のルールの伝え方
- ④学びを支える保育者の言葉を増やす
- ⑤保育者の語彙（ボキャブラリー）を増やす
- ⑥これまでの研修の振り返り

6

研修① 肯定的な見方と表現を知る

- 各グループで本の読み合わせを行う。
- 本の内容で気になった箇所や共感できる箇所を出し合って話し合う。

研修を終えて

- 一人一人気づく内容が違い、言葉を考え相手の考えを肯定的にとらえる学びにつながった。
- 専門職は、専門書なども読み自ら専門知識を高めていくことも大事なので、自らも専門書を読み、知識を高めていく。

7

研修② 肯定的（ポジティブ）な話し方を知る

- 他己紹介を行い、5分間相手の良いところを伝える。
- 本の読み合わせをグループで行い、その内容についてリモートでみんなの意見を出し合う。
- ワークシートを基にいろいろな場面の声のかけ方をグループで出し合う。

研修を終えて

- コロナ禍の中、マスク着用で表情が隠れているからこそ、目の表情を意識して笑顔を作り、柔らかい雰囲気子ども達と接していきたい。
- 他己紹介で相手の素敵なところを改めて知る事ができた。また、自分も紹介してもらうことで自分に自信を持つことができた。
- むやみに褒めることが、子どもを操作してしまっていた事に気づかされた。



8

研修③ 生活のスキルや社会のルールの伝え方

- 本の読み合わせをグループで行い、子どもに伝わりやすい話し方、生活のスキルや社会のルールの伝え方をワークシートを基に確認する。



研修を終えて

- 乳児への生活のスキルや社会のルールの伝え方は、脅したり叱ったりせず・短く・わかりやすく・ストレートに・どうすればよいのか伝わりやすい具体的な言葉で伝えることを学んだ。
- 発達段階に合わせて、短く具体的に伝えていく必要がある。

1・2歳児に伝わりやすい話し方

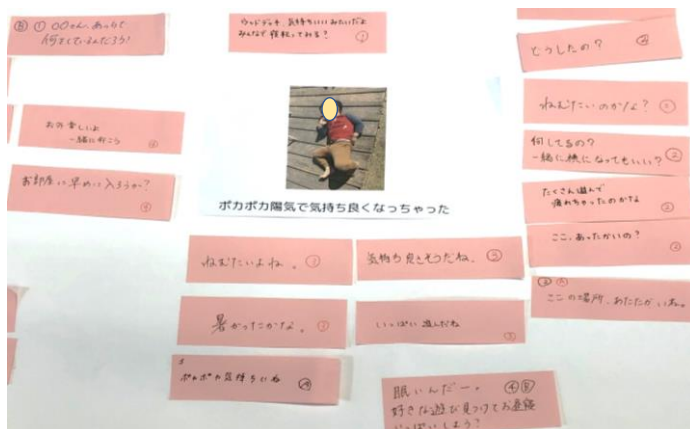
書籍「保育者の関わり方の理論と実践」より

- ①気持ちを受け止める
「〇〇がしたかったんだね」
- ②自分の思いを伝える
「私は〇〇がしたいの」
- ③物のきもちを代弁する
「〇〇さん（物の名前）は、〇〇だって」
- ④選ばせる
「〇〇と△△は、どちらがいい？」
- ⑤尊重する
「〇〇をお願いね」
- ⑥理由を伝える
「〇〇だから、〇〇しようね」
- ⑦見通しを伝える
「〇〇したら、〇〇しようか」

9

研修④ 学びを支える保育者の言葉を増やす

- 色々なシチュエーションの写真からグループごとに1枚の写真を選び、その写真から読み取れる大人がかける言葉を付箋紙に書きだす。
- 本の演習にある「学びを支える保育者の具体的な言葉」の分類方法で分類する。



読み取れる言葉を
付箋紙に書きだす

10

学びを支える保育者の具体的な言葉に分類

分類分け	職員から出た言葉	保育者の言葉の意図 書籍「保育者の関わりの理論と実践」より
①クラス全員に対して働きかける	<ul style="list-style-type: none"> ウッドデッキ気持ちいいだよ みんなで寝っ転がってみる？ ひなたぼっこ気持ちよくてウトウトしそうだね 	<ul style="list-style-type: none"> 活動や課題について説明する 状況を伝える、起きた問題を子どもに返す 子どもへの関心・愛情・期待を伝える・頼む、励ます など
②知ろうとする	<ul style="list-style-type: none"> 何しているの？一緒に横になってもいい？ ここの場所、あったかいね 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの気持ち（感情）をくみとろうとする 子どもの理由や状況を知ろうとする 子どもの考えを知ろうとする
③受け止める	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちよさそうだね ポカポカ気持ちいいね 眠たいよね 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの挑戦や試行錯誤を見守る 子どもの考えや意見を受け入れる 子どもの表現を受け止める など
④働きかける	<ul style="list-style-type: none"> 寝ころんだら、空が見えるね 何がみえるかな？ 気持ちいいね、眠たくなるね 〇〇さんあったかい？ 	<ul style="list-style-type: none"> 気づきを促す、行動を促す 子どもの考えや気持ちを表現するように促す 仲間とつなぐ など

研修を終えて

- 子どもに対してどのような声のかけ方をしたら良いか考える良い機会になった。
- グループの人の意見も聞けたので参考になった。

11

研修⑤ 保育者の語彙（ボキャブラリー）を増やす

- シチュエーションを作り、2人ペアで子ども役と保育者役の役交代をしながら、保育者役が子どもに身に着けてほしい豊かな言葉を意識して会話をする。（1分半で役割交代）
- グループ発表を行う。
- ワークシートの“感情を表出し、感情や行動をコントロールする言葉”を職員で出し合い6種類に分類する。
- 「すごい」「じょうず」の言葉の言い換えを考える。

演習①

設定場所→園庭 設定年齢→2歳児の子ども
シチュエーション：園庭でカエルを見つける。



12

“感情を表出し、感情や行動をコントロールする言葉”を6種類に分類

分類分け	職員から出た言葉	書籍 「保育者の関わりの理論と実践」より
①気持ちを表す言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉しい ・ドキドキするね ・私もワクワクするよ～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・すっきりした ・嫌な気持ちがする
②体調を伝える言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・汗たくさんかいて気持ち悪いね ・今日は 元気ないけどどうしたの？ ・鼻がつまってつらいね～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いたい ・気持ちが悪い ・吐き気がする ・ムカムカする ・打った～
③考えを表す言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・むずかしいね～ ・よく思いついたね ・どうしたらいいと思う？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いい・わるい ・～になる ・むずかしい ・正しい ・うまい ・簡単
④気持ちや行動を コントロールする言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒におもちゃ探しに行こう～ ・嫌だったんだね 	<ul style="list-style-type: none"> ・～のもの ・順番・我慢 ・しない方がいい ・みんなのもの ・ダメ
⑤気持ちを切り替える	<ul style="list-style-type: none"> ・何かお手伝いしようか ・～できたね ・きれいにしてから 遊ぼうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・～するつもり ・～のしごと ・～したら
⑥白か黒かの二極の世界から中間の 世界を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・半分 ・どっちがいい ・連続 	<ul style="list-style-type: none"> ・迷う・悩む ・中くらい ・どちらでも ・～もあるし～もある ・おいしい ・どっち

13

「すごい」「じょうず」の言葉をどうかえる？

- ・手際がいいね
- ・組み合わせがいいね
- ・筋肉が発達したね
- ・余裕があるね
- ・べんりだね
- ・統一感があるね
- ・いい感じだね
- ・おしゃれたね
- ・賢いね
- ・やる気に満ち溢れているね



ポイント！

子どもに具体的に伝えることを意識する

研修を終えて

- ・グループのシチュエーションを発表し、それぞれの言葉のかけ方を知ることができた。
- ・みんなから笑いも起き、有意義な研修へと繋がった。
普段使っている言葉以外にもたくさんの言葉があり、語彙力を上げて言葉の表現を豊かにしていきたい。
- ・子どもは、大人との会話で言葉を身に着けていくので、たくさんの語彙を使って子どもと丁寧に関わっていきたい。
- ・改めてボキャブラリーの少なさに気づいた。

14

研修⑥ これまでの研修の振り返りから実践へ

- これまでの研修内容を振り返る。
- クラスが悩んでいる事例をあげ、1枚の写真から各グループで関わりを考え、発表を行う。

関わりを考えた1枚の写真 ↓



【事例】

Aさん(2歳9ヵ月)

いつも大好きなうさぎ小屋の前にいる。
遊びに誘うが、なかなか参加してくれない。

【職員から出た言葉】

- なにみてるの？
- ここ涼しいね
- うさぎさん好きなんだね～
- うさぎさんのごはん探しに行こう。
- うさぎさんかわいいね～
- うさぎさんの様子をお友だちに教えてあげよう！
- 園庭にどんな生き物がいるか探しに行こう
- わらべうたやってるよ
- 園庭で生き物(虫)見つけたらお部屋に戻ろうか
- うさぎさん眠っているから園庭に戻ろう
- うさぎさんもお飯食べているから、お部屋に戻ってごはんにしようか。

15

研修で出た言葉を使って実践へ移してみた

うさぎ小屋から離れなかったAさんはどうなったのでしょうか・・・？

実践1

保育者A
うさぎさん、かわいいね。
うさぎさんのご飯を探しに行こう。うさぎさん、何が好きな？



一緒に草をとってうさぎ小屋へ

おいしそうに食べてるね。まだまだうさぎさん、食べたそうだね。ごはん、もう一回取りに行こうか？

時間が気になり焦ってきた。どうしたらお部屋に戻れるかな？お部屋大丈夫かな？近くの大人と連携をとる。



保育者の心の声：そろそろお部屋に行く時間だけどうやって誘うかな。早くいかないと、次の子が遅くなってしまう・・・

もう一度、草を持ってうさぎ小屋へ

- 子どもの気持ちに寄り添いその子の遊びに共感し、声をかけていくと、子どもたちも次へと行動していくことに気づいた。
- 大人が子どもへの関わりに対して共通理解をし、保育の連携を行うことで、焦りがなくなり、子どもの気持ちに寄り添いながら待つことができる。

一緒にお部屋に向かうことができた
あー、良かった。
と一安心。

うさぎさん、おなかいっぱいになったかな？Aさんもご飯食べに行こうか？

おねがい！うさぎがご飯食べたからお部屋に戻ってくれるかな。



16

翌日から水遊びが始まった。
 ジョーロを持っていつものようにうさぎを見ていたAさん。

実践 2

保育者A
 うさぎさん見てるの？

保育者の心の声：
 園庭遊びは、他の職員に任せて
 Aさんに寄り添ってみようかな？

Aさん：「うん・・・」
 しばらくしてうさぎ小屋の
 近くにある蛇口から、
 ジョーロに水を入れ始める。

みんな向こうで水遊びしているよ。
 楽しそうだけど行ってみる？

水で遊びたいのかな？園庭での遊びを知らない
 のかもしれない。園庭遊びに誘ってみよう。



Aさんはうさ
 ぎ小屋を離れ、
 みんながいる
 園庭に向かう。

あれ？
 こんなにスムーズ？

ジョーロに入っている水を流し
 ては、何度も水を汲み、楽しん
 でいる。

好きな遊びが見つかって
 良かった。

大人は、一人一人の子どもの姿の
 把握をし、その時にあった言葉や遊びの
 提供（魅力的な遊び）の仕方が必要だと
 いうことを再度学んだ。



17

園内研修後の職員の声をもッピング形式で出し合う（悩みや葛藤・心のつぶやき）

自分の保育を見つめて
 ～職員の声①～

自分の保育の気づき
 ～職員の声②～

実践をしていく中での気づき
 ～職員の声③～

保育の中での心のつぶやき
 ～職員の声④～

18

悩みと葛藤から見えてきた課題と改善方法（行動の変化）

①子どもの動きが大きいと大人の動きも大きくなり、ゆとりを持たなくなっている。

子どもたちの動きがなぜ大きくなっているのかを話し合い、その動きに合わせた遊びや、環境を整える。

②自分の保育を見つめ、保育の悩みや新たな保育の気づきなどを職員で共有し、共に保育の改善を行う。

園内研修やミーティングの中で、一人一人が話せる場を設けたり、話しやすい雰囲気を作っていく。

③「子どもたちの言葉にならない声」の受け止め方が弱い。

子どもの気持ちがかみ取れるように園内研修を通して学びを深めていきたい。他の職員の意見も聞いてみる。

④子どもたちの疑問などに対するの関わりに戸惑う

子どもからの質問などには、直ぐに答えを出すのではなく、一緒に考えていくように働きかける。

19

⑤保育中子どもたちとどう関わっていいのかわからず焦ってしまい、子どもの遊びに寄り添えない時がある。

一人で焦らず、周りの大人に頼り助けをもらいながら、ゆったりと保育できるようにする。

子どもの遊び（学び）の中では、興味を広げていけるように、もっと語彙力や肯定的な言葉でのかかわりを増やしていく。

⑥指示語を少なくということを学んでいるが、指示語がとっさに出てしまう。

指示語を使わず、気づかせていけるような声掛けを心がけていく。

周りにいる職員が、そーっと気づかせるような言葉で助けてあげるのもいいのではないか。

肯定的な言葉を園内研修で学びを深める。

20

幼児クラスからの実践エピソード

保育の言葉を豊かにしようと意識して声掛けを進めていく。その中で、考えすぎて、なんて伝えていいのかわからなくなり止まってしまった。そして思わず目の前の子どもに、「なんていうんだっけ?」とつたえると、「わからないよ～」なんて子どもと会話した日もあった。

21

6. 考察

園内研修では、職員が司会や進行を交代で行うことにより、担当同士での話し合いが広がり、研修内容が充実した。その結果、受け身だった研修も積極的に参加でき、主体的・理論的な学びにもつながっているように感じる。

園内研修の回を重ねるごとに、保育者の関わりを職員と意見を出し合うことができ、職員の気づきや学び、悩みなども以前よりも共有できてきたのではないかと感じた。

また、研修後、実践に直ぐにつなげようとするが、難しさや戸惑いもある。

子どもへかける言葉は、指示ではなく、言葉の関わりを通して応答的な会話をもって、遊びの援助をしていきたいと思っているが、実際には指示語がまだ少なくなっていないのも現状である。

私たちがモデルとなって丁寧な言葉を使う事で、子ども同士の関わりにも自然に丁寧な言葉を使う姿がみられる。

今回の園内研修では、保育者の関わりがいかに大事なものなのかと改めて感じた。

子どもの最善の利益や子ども一人一人の人権を尊重した保育を行うためには、保育者の関わりの一つ一つが繋がっていることに気づき、とても奥深いと考えさせられた。

保育者一人では、園の保育を行うことは難しく、職員みんなで一つ一つ考え、学びながら共有し、保育実践に活かしていきたいと思う。

22

ご清聴ありがとうございました。

23

引用・参考文献

高山 静子 (2019) 保育者の関りの理論と実践～教育と福祉の専門職として～ エイデル研究所

高山 静子 (2021) 改定 保育者の関りの理論と実践～保育の専門性に基づいて～ 郁洋舎

高山 静子 (2021) 改定 環境構成の理論と実践～保育の専門性に基づいて～ 郁洋舎

保育所保育指針 <平成29年度告示>

24